

「形状，イメージ，管理者などから検証した，日本全国の地下街」
Japanese underground towns I inspected from the shapes,
image and the managers.

小松 剛弘（慶應義塾大学 環境情報学部）

Takehiro Komatsu

(The faculty of Environment Information, Keio University)

I completed a lot of process to success this study. I went to each Japanese underground town and researched them. Difinitely I researched many equipments and facilities; stairs, elevators ,shops` category ,number and soft problem; prevention of fires and theirs management. In the points, I demanded what are the problems there are in each undergrounds` towns or all of the undergrounds` towns.

This study has two ways to search for each example completely and to divide their type.

キーワード：日本の地下街，形状，面積，歴史，防災，アクセシビリティ，明暗イメージ，地図，管理者へのヒアリング

Keyword: Japanese undergrounds` towns, area, floor space, size, history, prevention of fires, accessibility, light and dark image, map, hearing to managers

1. はじめに

2002年から2003年にかけて，東京を中心とした場所で大規模な再開発を行ってきた場所が，続々オープンをしている。「丸ビル」，「汐留」や「品川」などの国鉄清算事業団が所有していた土地でもオープンしている。そこは，新たな東京の名所であるだけでなく，商業地，勤務地・住宅地としての多機能性を含んだまちづくりが進んでいる。

その中でも，土地の有効利用や地権者との合意形成によって作られた，「六本木ヒルズ」がもうじきオープンをする。また，「新宿富久町」のまちづくりのように，低層住宅と高層住宅の折衷的なまちづくりも行われている。

確かに，最近の記事にあるとおり，土地の有効活用として「高層化」を行っており，いずれも法律的には合法，経済活動の自由が優先されている。しかし，周りとの合意形成が取れずに，東京都国立市や横浜の山手地区のようなマンション建設反対運動が起きてしまう火種にもなる。

そこで，「地上の景観の維持」，「経済活動の自由」，「自立的かつ環境に負荷をかけない人と

街」をつくるうえで，どうしても考慮しなければいけない。そのうえ，平成13年に大深度地下の公共の利用に関する特別措置法が制定され，東京外郭環状道路に適用するといったことがある。そこで，駅前や交通として重要な場所に存在し，既に人々の活動が行われている「地下街」にスポットを絞った。

2. いったいどのような研究なのか？

この研究は，日本全国の殆どの地下街をくまなく実地調査を行い，その中で階段やエレベーターといった設備の数，商店街に存在するテナントの特徴，防災設備といったハードな設備から，地下街の管理はいったいどのようなになっているのか？といったソフトな問題など，地下街に関する多くの問題点を列挙した上で，それぞれの地下街，地下街における共通の問題は何であるか？をもう一度再認識していくプロセスを生んだ研究である。

その上で，この研究は個別の事例の徹底的な追求と地下街を類型化するという二つの方向から考察をしていく研究である。

しかし、ここで研究は終わっていない。今後、この中から問題点をより深く進め、個別の地下街をいくつか絞って、「ユーザーからのアンケート調査」、「そこから改善案としてのデザインおよび政策提言」、「合意形成プロセス」を行う実験へと発展させていきたい。その手前の研究である。

3. 研究の目的

さきほど記したとおりであるが、この研究はここで終了する研究ではない。従来なら、最初から「アクセシビリティ」、「防災技術の改善」、「交通量はどうか?」という単一の目的を持って研究をしていた。が、この研究を行う上で、どこの地下街でも上のような問題が存在することは前提である。その上で、研究作業をすすめていくことになる。

しかし、どのような問題が大きいのか?を発見することを目的とした研究成果は上の内容に比べて圧倒的に少ないのが分かる。それに、個別の地下街を研究していったものはいくつか存在するが、「それぞれの地下街の比較検討を目的とした研究」は、それこそ少ない、下手をすれば未知の領域の可能性もある。

そのような意味を含めて、

日本全国の地下街を調べて、それぞれの地下街にどのような特徴があるか?

日本でここだけにしかない、気候や地形といった自然的な要素、交通や歩行者といった社会的な要素としてどのようなものがあるか?

地下街を比較、類型化して近似的なものに何があるか?

問題要素の中で、それぞれの地下街の管理者が認識しているものは何か?

これらを明確化して、表現していくことが今度の研究の目的である。

4. 昨年までの研究成果

一昨年(2001年)、昨年(2002年)も東日本旅客鉄道からのご寄附によって、この冊子を投稿させていただいた。そこでどのような成果が出たのかをもう一度記しておく。

4.1 2000年度の実績

2001年「地下空間のイメージ分析に基づく、

地下空間の活用例の研究」であった。このときは、「現代映画における地下空間のイメージの分析(1997年度)」（後は「01」と記しておく）を参考にして、「銀座~大手町の連続する地下街」をフィールドワークして、問題の発見を行ってきた。イメージには、「理想空間イメージ」、「反社会空間イメージ」、「防衛空間イメージ」にカテゴリーとして分けられ、超越、自由、希望、混乱、忍耐、清浄空間としてカテゴリー化して、以下の場所での検証を行った。その結果、デザインには色彩と照明で変化が可能、バリアフリー化での問題点に気がついた。

4.2 2001年度の実績

2002年「安全・イメージとユニヴァーサルデザインの観点によるより良い地下利用を目指して」であった。このときは、地下における問題として心理的な問題よりも「国土製作機構および未来工学研究所による結果」では、「空調・騒音」、「天候」の問題があることが分かった。その他に、防災面、ユニヴァーサルデザインの事例を述べた後、大江戸線、名古屋のフィールド調査を行って検証を行った。そこで、気づいたことは「構造物ができた年代において主流となった概念が生かされている、法律に遵守するだけで、ユーザーの立場を考慮したデザインに乏しい。」ということが分かった。

5. 地下街とは?

5.1 地下街のカテゴリー

実は、地下街には大まかに分けると三種類存在する。それは、以下のとおりである。

、地下街

道路や駅前広場等の公共用地の地下に、公共地下歩道を中心として店舗や各種サービス施設を配置した施設である。

、準地下街

公共地下歩道は公共用地の地下に位置するが、店舗等は公共用地に隣接する民地内に配置した施設である。このような類には、「東京駅名店街」や「静岡ゴールデン街」などが存在する。

、建築物の地下階

通路・店舗とも建築物の地下階に配置した施設である。この中に、代表されるのがデパートメントストアの地下ショッピングセンター、所謂「デパ地下」である。

今回は「 」をターゲットに調べる。

5.2 地下街に関する基準等の変遷と事故

そもそも、「建築基準法」、「消防法」、「道路法」と関連した通達であった。しかし、昭和45年に大阪で起きた「地下鉄工事爆発事故」、昭和47年に大阪で起きた「千日前デパート火災事故」によって、地下街の取り扱いが強化された。昭和48年に地下街連絡協議会の設置を行い、改造計画において建設省などの許可が必要になってきた。

翌年には地下街に関する基本方針が示された。これが今後の地下街の設置条件に大きな影響を与えているので、詳しく述べる。

公共地下歩道・地下駐車場の整備が主眼、店舗等は極力小規模に。

公共比率規定

地下街の延床面積 公共地下駐車場の延床面積
店舗等の延床面積 公共地下歩道の延床面積

地下街は一層に限る。(駐車場、機械室等は別)

設備規定

- ・公共地下歩道の幅員(最低6m)
- ・地上に通ずる階段の最低幅員1.5m
- ・公共地下歩道のいかなる地点からも歩行距離50m以内に地下広場設置。地下広場には、排煙、採光のための吹き抜けと2m以上の地上に直接通ずる階段の設置
- ・公共地下歩道及び地下広場には、噴水、池その他支障となるおそれのあるものを設けないこと
- ・地下街と建築物の地下階との接続は原則禁止、条件を満足の場合は可
- ・消防、警察機関等との即時交信が可能な防災センターの設置
- ・防火区画規定

各構えは相互に床面積200㎡以内ごとに耐火構造の壁で区画

・スプリンクラー、自動火災報知設備、放送設備、連結送水管等消防設備の設置

である。

しかし、昭和55年に静岡で「ゴールデン街ガス爆発事故」が発生して、地下街に関する基本方針が改正され、「ガス対策規定」が追加された。昭和61年には、「地下街の設置がやむを得ない場合の明確化と第三セクターの出資規定の緩和

和」がなされた。同時に地下街の防災と安全評定に関する対策がなされた。

その後、昭和63年に地下街と地下建築物に関する接続要件が緩和され、平成10年に公共比率・防火区画規定の緩和等が行われた。これも重要なので、詳しく述べる。

従来「店舗等」と扱っていた各施設の取扱いを変更することで、店舗の設置可能な延床面積の拡大を行う。

- ・エスカレータ・エレベータ等の「歩行者支援施設」を「公共地下歩道」に変更すること、
- ・防災センターといった管理運営上必要な施設を地下街面積から除外すること
- ・公共サービス施設を地下街面積から除外することといったことを行った。

避難上支障となるおそれのない噴水や池等についての設置制限の解除

防火区画制限床面積200㎡以上の安全性を有すると認められた場合に各構えの区画面積を拡大可能にすることであった。

同時に地下利用のガイドプランも出された。策定対象都市は、「政令指定都市」・「県庁所在都市」・「人口30万人以上の都市」・「豪雪地帯における人口10万人以上の市」である。対象地区としては、土地の高度利用を要する中心市街地等、面的開発地区で地下利用が想定されている地区、地下交通施設・交通ネットワーク整備が計画されている地区である。これは、地下街に特化したものではなく、鉄道や地下公共空地、交通ネットワークなどにも適用する。

これらのことは、これらの研究の中で検証する上で重要な情報である。

6. 研究の手法および対象場所

6.1 研究の手法

では、「3」で記した目的を達成するためにいったいどのような研究手法を使ってきたのかを紹介しておく。

(1) イメージ分析

日本全国の地下街のフィールド調査をもとに調べ、その中でデータを分析して、明るさは1000ルクス以上を明るい、300ルクス以下を暗いとする。高さも、10メートル以上や

3 メートル以下などといったように段階的に、明るさと高さを評価していく。

そして、先ほど紹介した「01」のデータを基準として評価する。

- ・イメージ分析の基準になるデータ
- ・明るさ・高さの基準

(2) 地下街の歴史と面積

jpinfo というページのデータを引用して、各々の地下街がいつ完成をしたのか？、面積はどのくらいなのか？ということ把握した。また、地下街の歴史と面積はいったいどのような関係であるのか？ということも紹介する。尚、別紙01として日本全国の地下街の面積・名称・完成時期の一覧表を掲載しておく。

(3) 地下街の類型化

こちらは、「ゼンリンの住宅地図」、「各々の地下街のパフレット、ホームページ」を参考に地下街の地上と地下の関係でどのような形になっているのかを調査した。

(4) 地下街の管理者の認識

こちらに関しては、私のほうから東京・神奈川・札幌においては直接的にヒヤリングを地下街の広報および管理責任者に対して行った。具体的には、(1)防災上の観点、(2)アクセシビリティの観点、(3)空調の観点などに対してどのように意識をもっているか、その他はどのような意識を持っているのかを調査した。その上で、問題意識の優先順位まで尋ねた。同時に、どのような解決策を行ったのかを尋ねた。

ただし、プライバシーの都合上、個別の地下街に関しては公表をしない。

6.2 対象場所

「5」で取り上げたに該当する地下街を限定にして、そこに該当する日本全国の殆どの地下街およびその地上全般。ただし、個別の商店に関してはどのような種類の商店かを把握しただけで、店の名称までは調査対象にはしていない。尚、対象地下街の詳細は、別記1を参考にさせていただきたい。

7. イメージ分析

7.1 イメージの基準となるデータ

過去の論文を参考にすが、地下空間を構成する要素とイメージは参考であるが、以下のようなになる。(別記2)

この論文では、「理想と現実」、「善と悪」という二軸による心理空間が表現され、理想空間、反社会空間、防衛空間、童夢空間、必然的空間に分類されている。地下シーンの効果に関する分析として、超越、自由、希望、混乱、忍耐、清浄のイメージが抽出されている。そして、善悪は人為的なものに起因することも判明している。

地下街においては、個別の地下街によってそれぞれの空間の演出、限りあるスペースを有効活用している点から考えていて、それぞれの地下街の管理者や設計者、ユーザーが描くそれぞれの理想を実現することは困難であるのは否めない。

とある地下街を事例にして写真から判断を試みる。以下がその写真である。

1, 地下街Aの場合



(図1)

(図2)

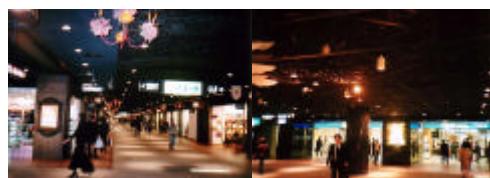
2, 地下街Bの場合



(図3)

(図4)

3, 地下街Cの場合



(図5)

(図6)

「1」を事例にして判断を行うと、通路内の照明は一行の蛍光灯があるが、灰色のコンクリートに覆われている。明るさも明るいところで

300ルクス、暗いところでは100ルクス以下であった。暗い場所である。形態としては、高さが低く、広がりはやや狭く、奥行きは中くらいというところである。イメージとしては「必然」、効果としては「忍耐」と「希望」の間であろう。

「2」に関してだが「図3」と「図4」では明らかに照明方法やルクスも違う。しかし、同じ地下街である。空間によって差をつけている。「図3」は「理想」で「超越」,「図4」は「童夢」で「清浄」なイメージを持たせている。

「3」に関してだが双方とも、壁面や天井は黒を基調にしている。暗いところは100ルクス以下であり、明るいところも300ルクス程度である。しかし、テナントの中は明るい。ただ、イメージ的には「理想」であり、効果的には「超越」的な印象を与える。

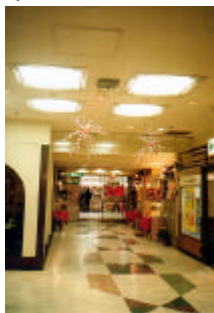
ただ、全国的にある地下街を見る限り、古い地下街は高さが低く、広がりも狭く、奥行きが短く、照明も暗い場合が多い。つまり、「必然的なイメージ」、「忍耐的な効果」が強い要素がある。新しくなればなるほど、高さは高くなり、広がりも広くなり、奥行きも長くなる傾向が強くなった。イメージ的にも「防衛」から「反社会」、「理想」・「童夢」といったイメージになり、効果としても「混乱」から「超越」・「自由」・「清浄」といったより開放的な方向に地下街が進んでいるのが見えてきた。

7.2 明るさの基準と人の視認性

全国の地下街を調べているうえで、札幌・関東・中国・福岡にある地下街では、照度計を用いることで、実際の明るさと目に映る心理的な明るさとの相違を調べることができた。

2つの地下街を事例に見てみる。

1, 地下街Dの場合



(図7)



(図8)

2, 地下街Eの場合



(図9)



(図10)

「1」と「2」で共通しているところは、「レストラン」が集中している場所は、暖色系の照明を用いている。しかし、ルクス計による測定で300ルクスから500ルクスに設定されていた。それに対して、「通路」や「ファッション」が集中している場所は明るく、1000ルクス程度であった。このような傾向は、私がフィールドワークを行った多くの地下街で共通していることであった。

しかし、地下街DとEでは、ルクス計で測定すると「D」の地下街のほうが平均的に明るかった。しかし、「E」の地下街のほうが明暗に対してメリハリがあった。そして、壁や天井の色を調べてみると、「D」は白を基調としていてペンキが塗られている、もしくは白タイルなどが用いられている。「E」は赤茶色が基調になっていて、イタリアをテーマにしたデザインが施されている場所が多い。

私が印象に受けたところ、「E」のほうが暗くても温もりを感じさせる印象を受けた。つまり、明るさでは暗いが、精神的に受ける印象として「D」より明るいと感じてしまうことがある。

このような傾向は、決して2つの地下街のことではない。基準として、照度による判断だけで明暗を分けることは極めて問題があることが分かった。

明るさの基準には複数存在することが分かった。

- ・直接的な照明による明るさ
- ・照明による影響の範囲
- ・天井, 床, 壁に使う素材
- ・天井, 床, 壁に使う色や反射

つまり、照度が低くても、暖色系の素材や天井を用いることで、明るさのカバーができるだけでなく、デザインをすることでそれぞれの地下街における個性を発揮できること、省エネに繋げることが可能であることが分かった。

8. 地下街の歴史と面積

「全国地下台帳一覧(H5)」および「全国地下利用開発センター」を参照して、日本全国に存在する地下街は、82箇所。

- 北海道3箇所。(すべて札幌市内)
- 岩手県盛岡市1箇所。
- 神奈川県7箇所。(横浜市5箇所,川崎・小田原に1つ)
- 千葉県1箇所(船橋市)。
- 東京都13箇所。
- 愛知県24箇所(名古屋市23箇所,蒲郡市1箇所)
- 新潟市・高岡市・金沢市(各1箇所)
- 京都市2箇所。
- 大阪市11箇所。
- 兵庫県8箇所(神戸市6箇所,姫路市2箇所)
- 岡山市3箇所。
- 広島市・松山市(各1箇所)
- 福岡市(3箇所)
- 長崎県佐世保市(1箇所)

8.1 面積はどうか？

10000㎡以上の地下街「32」個。
詳しくは別記1を参照。

基本的に各地方の中心の場所に多い。首都圏・中京圏・近畿圏すべてにおいて共通である。また、各地方の中心に存在する。ただし、仙台は含まれない。

現存する単独として存在する小規模な地下街(下から5つ)

- 地下鉄市役所駅構内店舗(名古屋市) 21㎡
- 地下鉄東山公園駅構内店舗(名古屋市) 24㎡
- 中部近鉄百貨店(名古屋市) 68㎡
- 地下鉄銀座駅地下店舗(東京都中央区) 138㎡
- 須田町地下ストア(東京都千代田区) 144㎡

10000㎡未満の地下街の数「16」個。

うち、名古屋市内に存在する地下街「11」個。あきらかに、名古屋市営地下鉄の駅に近い。

8.2 歴史性はどうか？

古いものから5つ並べると、

- 1位 昭和7年4月 須田町ストア(東京都千代田区) 144㎡
- 2位 昭和27年12月 三原橋地下街(東京都中央区) 1429㎡
- 3位 昭和30年1月 浅草地下街(東京都台東区) 1277㎡
- 4位 昭和32年3月 名古屋地下街(名古屋市)

11347㎡

5位 昭和32年7月 新名フード地下街(名古屋市) 712㎡

戦前に完成しているのは須田町ストア1つのみ。

新しいものから5つ並べると

1位 平成13年4月 シャレオ(紙屋町地下街)(広島市) 24930㎡

2位 平成11年10月 札幌駅南口広場地下街(アピア)(札幌市) 29800㎡

3位 平成9年10月 京都御池地下街(京都市) 32120㎡

4位 平成9年5月 クリスタ長堀(大阪市) 81,765㎡

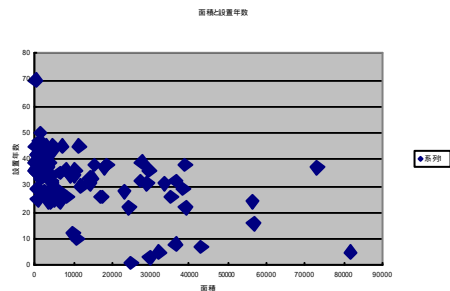
5位 平成7年10月 ディアモール大阪(大阪駅前ダイヤモンド地下街) 42,977㎡

新しい地下街には大規模な地下街が多い。

8.3 地下街での2つの関係はどうか？

| | 10,000㎡以上 | 1000㎡未満 |
|------------|-----------|---------|
| 昭和20年まで | 1つ, 0 | 1 |
| 昭和20年~29年 | 1つ, 0 | 0 |
| 昭和30年~34年 | 12個, 1 | 3 |
| 昭和35年~39年 | 13個, 4 | 6 |
| 昭和40年~44年 | 19個, 7 | 4 |
| 昭和45年~49年 | 15個, 8 | 1 |
| 昭和50年~54年 | 11個, 4 | 1 |
| 昭和55年~59年 | 2つ, 2 | 0 |
| 昭和60年~平成元年 | 1つ, 1 | 0 |
| 平成2年~6年 | 3つ, 2 | 0 |
| 平成7年~11年 | 4つ, 4 | 0 |
| 平成13年 | 1つ, 1 | 0 |
| 不明 | 2つ, 0 | 0 |

以下が相関関係のグラフである。



(図11)

古い地下街のほうが、面積が小さいことは

見えてわかる．そして，30年から40年のものが多く，面積は分散している．そして，20年以内のものは少ないが，面積はすべて最低9,000㎡以上である．

9．地下街の形状はどうなのか？

先ほど述べたとおり，地下街が存在するのは「駅前広場」や「道路」といった公共施設の下である．その直下で地下街にどのような形があり，そしてその形の中の通路はどのようになっているのかを分析する．以下のような5つ形に分けて，特徴を述べる．

9.1 ロータリーを含めた駅前広場型

駅の改札口から見るとアベニュー，線路に平行な部分のほうが長いことが多い．地下街の通路の数が多くなる特徴がある．地下街の店舗や通路を計画する上での自由度が高いのが特徴である．しかし，自分の現在位置が確認しづらく，迷子になりやすいのも特徴である．

「主な地下街」

岡山一番・三番街，名古屋テルミナ地下街，川崎アゼリア，京急しんちか，京都駅前ポルタ，エスカ（名古屋），小田急エース（新宿），小田原地下街，池袋ショッピングパーク，東武ホープセンター，アピア（札幌），デュオこうべ
「地上」 「地下」



(図12)



(図13)

9.2 道路（街路・線路）を含む直下型

地下街としては，縦長の地下街になりやすいのが特徴である．ストリートがとても長く，1本もしくは2本で存在し，2本の場合は真中に店があり，ストリートの間をつなぐ道が存在す

る．ただ，設計上で店舗の位置の自由度は少ない．道を間違えることは少ないが，現在位置を間違える可能性も存在する．

「主な地下街」

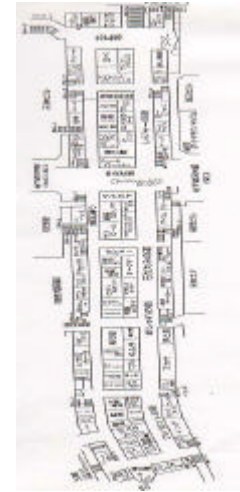
広島シャレオ地下街，天神地下街，クリスタ長堀，ゼスト御池（京都），なんなんタウン（難波），サブナード（新宿），京王モール（新宿），札幌地下街（ポールタウン），西堀ローザ（新潟），浅草地下街，三原橋地下街，メトロこうべ，マリナード（関内）

「地上」

「地下」



(図14)



(図15)

9.3 広幅員街路の地下街型

これは「9.2」とほぼ同じ類である．ただ，アベニューもある程度の長さがあるのが特徴である．場合によっては，半分が公共地下通路のみの場合も存在する．

「主な地下街」

セントラルパーク（名古屋栄）札幌地下街（オーロラタウン）

9.4 「1」と「2」を含む複合型

これは，大規模な地下街もしくはロータリーが小さく，交差点になっているようなところで存在する．両方のメリット・デメリットがそれぞれの部分で存在している．しかし，お互いのデメリットが打ち消しあうことは一切存在しない．

「主な地下街」

ユニモール（名古屋），ディアモール大阪，ハワイティ梅田，横浜ダイヤモンド地下街，渋谷地下街，横浜ポルタ地下街，八重洲地下街

10. 地下街の管理者から見たときの問題点

地下街に関して色々な形でカテゴリーごとに分けたりして、全国にある地下街の概要をつかみ、実際に実地調査をしてみた。それぞれの地下街で個別の問題が存在することは分かった。何しろ、地下街における問題点は、水害・火災・テロといった防災面、ユニヴァーサルデザイン・バリアフリーといった移動環境面、空気や振動といった生活環境面、商業活動といった経済面、それぞれにおける規則といった法律面などどこから切り開いても問題はあつた。これらが、融合関係になったり、対立関係になったりすることもあり、すべての問題を解決するのは難しい。しかし、以上の問題がすべて存在することはどこの地下街でも共通であつた。その上で、何が大きな問題であるかを尋ねた。

10.1 「防災面」と「移動環境面」を軸に

これらの問題は、どちらも大きな問題であることはどこでも認識していた。どちらかという過去との経緯から、「防火対策」、阪神大震災後の地震対策、水害対策といった防災面が重視された。その影で、段差の問題が生じてきた。段差に関しては、利用が多い場所にエスカレータやエレベータの設置、トイレなどではスロープ化も行っている。

しかし、既存の施設において移動環境面を改善する上でも限界がある。それは、スロープを作ると既存のフラットスペースを失うこと、また改造中にテナントに犠牲を強いることといった問題が発生する。

10.2 その他の面と最重要の問題

最近であるが、地下街にベンチが設置されていない地下街が存在する。それは、ホームレスが居座ってしまい、近隣のテナントの売り上げの減少、地下街の環境が悪化してしまうからである。でも、利用者から見ると休息の場としてのベンチを必要と感じる人も一方で存在する。

また、通路にもものを出すことも問題になる。テナント側は、少しでも利益を上げるために、軒先に商品を出したりするが、防災面によって禁止されている問題もある。

このようなことを含め、地下街の最大の問題は、「消防法・建築基準法」などの法律の問題、スペースの変更をする上で、所轄地方自治体の都市計画課による認可が必要である。何しろ、

地下街の換気塔を地上に作るうえでも、役所側は言いがかりをつけて、許可を出さないことすらあるくらいだからである。

それに、JR東日本を含めた鉄道会社の施設との移動環境の連携（インターモーダル）を図る意識が弱いからもある。しかし、札幌は北口と南口がフラットに結ばれた。

その他の大きな問題として、集中豪雨に対する問題が重要であると認識をしている傾向が多い。

11. 以上のことからわかったこと

地下街には多くの問題が存在する。最初から、防災問題だけを取り上げてそこを解決しても、他の問題が発生する環境であることも分かった。それに、地下街が完成した時期や規模、地上の環境、地域環境といったひとつのベクトルが異なるとそれだけで異なった問題が発生することもわかった。つまり、同一の地下街は存在しないのである。

12. 今後の研究の方向性・可能性

すべての地下街を調べるのが理想であるが、今後は5つ程度に絞って、研究室レベルで地下街の諸問題を解決するために、ユーザーへのアンケート調査、そこから街づくりミーティングを実行させ、その中で図面による表現をしていくことを考えている。今までのようにシーズン状態になる問題解決ではなく、複合的な視野で問題を解決していくことをモットーにする。

「参考文献」

[1]「現代映画における地下空間イメージの分析」 関口佳司、北村眞一著（日本都市計画学会学術研究論文集 1997年度） 一部引用

[2]「地下街に関する基本方針の改正等」について 茂木貴志著（建設省都市局都市計画課課長補佐 1998年） 一部引用

[3]「地下空間のデザイン」レイモン・L・スクーリング/ジョン・C・カーモディ著 羽根義/小林浩訳 山海堂 1995年

[4]建築関係法令集 平成13年版 建築法規編集会議編 技報堂出版 2000年

[5]住宅地図 福岡市中央区・岡山市 2002年 ゼンリン その他多数

謝 辞

尚、この研究にご協力をしてくださった、「横浜地下街 ザ・ダイヤモンド」、「横浜ポルタ地下街」、「八重洲地下街」、「新宿サブナード地下街」をはじめ、この研究のためにご協力をして

くださった現場のみなさま、この研究のために指導してくださった有澤誠先生、日端康雄先生をはじめとした、有澤研究会・日端研究会のみなさまに感謝いたします。

| 施設名称 | 都道府県 | 市区町村 | 規模 | 単位 | 開設年月 |
|--------------------------|------|---------|--------|----------------|----------------|
| クリスタ長堀 | 大阪府 | 大阪市中央区 | 81,765 | m ² | h09.05 |
| 八重洲地下街 | 東京都 | 中央区 | 73,253 | m ² | s40.06(s44.2) |
| 川崎地下街アゼリア | 神奈川県 | 川崎市川崎区 | 56,704 | m ² | s61.10 |
| セントラルパーク地下街 | 愛知県 | 名古屋市中区 | 56,370 | m ² | s53.11 |
| ディアモール大阪 (大阪駅前ダイヤモンド地下街) | 大阪府 | 大阪市北区 | 42,977 | m ² | h07.10 |
| 横浜駅東口広場地下街 (ポルタ) | 神奈川県 | 横浜市西区 | 39,133 | m ² | s55.11 |
| ザ・ダイヤモンド | 神奈川県 | 横浜市西区 | 38,816 | m ² | s39.12 |
| 新宿サブナード | 東京都 | 新宿区 | 38,364 | m ² | s48.09(s50.10) |
| なんばウォーク | 大阪府 | 大阪市中央区 | 36,475 | m ² | h06.04 |
| 虹の町 (1期 2期) | 大阪府 | 大阪市中央区 | 36,475 | m ² | s45.03(s46.12) |
| 天神地下街 | 福岡県 | 福岡市 | 35,250 | m ² | s51.09 |
| 大通地下街 (札幌オーロラ・タウン) | 北海道 | 札幌市 | 33,646 | m ² | s46.11 |
| 京都御池地下街 | 京都府 | 京都市中京区 | 32,120 | m ² | h09.10 |
| 札幌駅南口広場地下街 (アピア) | 北海道 | 札幌市 | 29,800 | m ² | h11.10 |
| 新宿西口地下街 (小田急エース) | 東京都 | 新宿区 | 29,650 | m ² | s41.11 |
| 新幹線地下街エスカ | 愛知県 | 名古屋市 | 29,180 | m ² | s46.12 |
| ホワイトイー うめだ | 大阪府 | 大阪市北区 | 27,715 | m ² | s38.11(s45.3) |
| ユニモール | 愛知県 | 名古屋市中村区 | 27,364 | m ² | s45.11(h1.1) |
| シャレオ (紙屋町地下街) | 広島県 | 広島市 | 24,930 | m ² | h13.04 |
| 京都駅北口広場地下街 (ポルタ) | 京都府 | 京都市 | 24,339 | m ² | s55.11 |
| 岡山一番街 | 岡山県 | 岡山市駅元町 | 23,201 | m ² | s49.08 |
| 新宿駅東口地下街 | 東京都 | 新宿区 | 18,675 | m ² | s39.05 |
| さんちか | 兵庫県 | 神戸市 | 17,998 | m ² | s40.10 |
| 西堀ローザ | 新潟県 | 新潟市 | 17,359 | m ² | s51.10 |
| 京王モール | 東京都 | 新宿区 | 17,079 | m ² | s51.03 |
| 池袋東口地下街 (池袋ショッピングパーク) | 東京都 | 豊島区 | 15,357 | m ² | s39.09 |
| 池袋東武ホープセンター | 東京都 | 豊島区 | 14,709 | m ² | s44.04 |
| サカエチカ | 愛知県 | 名古屋市 | 14,251 | m ² | s44.11 |
| 札幌駅前通地下街 (ポールタウン) | 北海道 | 札幌市 | 14,139 | m ² | s46.11 |
| 新橋駅東口地下街 (京急しんちか) | 東京都 | 港区 | 11,849 | m ² | s47.06 |
| 名古屋地下街 | 愛知県 | 名古屋市 | 11,347 | m ² | s32.03(s44.12) |
| デュオこうべ浜の手 | 兵庫県 | 神戸市 | 10,863 | m ² | h04.09 |
| 札幌駅南口広場地下街 (札幌駅名店街) | 北海道 | 札幌市 | 10,259 | m ² | s41.03 (統合) |
| メトロこうべ | 兵庫県 | 神戸市 | 10,198 | m ² | s43.09 |
| 大阪京橋公園サンクンガーデン(ロムズガーデン) | 大阪府 | 大阪市 | 9,822 | m ² | h02.04 |
| アペル地下センター | 大阪府 | 大阪市 | 9,245 | m ² | s43.11 |
| 小田原地下街 | 神奈川県 | 小田原市 | 8,284 | m ² | s51.11 |
| ドーチカ名店街 | 大阪府 | 大阪市 | 7,964 | m ² | s41.07 |
| 神戸駅地下街 | 兵庫県 | 神戸市 | 7,800 | m ² | ? |
| なんなんタウン | 大阪府 | 大阪市 | 7,158 | m ² | s32.12 |

| | | | | |
|--------------------------|------|------|--------|----------------|
| テルミナ地下街 | 愛知県 | 名古屋市 | 6,986㎡ | ¥51.11 |
| 札幌駅南口広場地下街(エスタニ番街) | 北海道 | 札幌市 | 6,372㎡ | ¥53.09(統合) |
| 船橋パール地下街 | 千葉県 | 船橋市 | 6,353㎡ | ¥42.10 |
| デュオこよべ山の手 | 兵庫県 | 神戸市 | 6,221㎡ | ¥49.10 |
| 神戸ハーバーランド | 兵庫県 | 神戸市 | 6,072㎡ | ? |
| 横浜中央地下街(マリナード) | 神奈川県 | 横浜市 | 4,809㎡ | ¥52.10 |
| 渋谷地下街 | 東京都 | 渋谷区 | 4,676㎡ | ¥32.12 |
| 松山市駅前地下街 | 愛媛県 | 松山市 | 4,596㎡ | ¥46.04 |
| 姫路駅フェスタ地下名店街 | 兵庫県 | 姫路市 | 4,587㎡ | ¥34.11(¥47.10) |
| 桜木町ゴールデンセンター | 神奈川県 | 横浜市 | 4,195㎡ | ¥43.05 |
| 高岡駅前地下街 | 富山県 | 高岡市 | 4,144㎡ | ¥45.07 |
| 地下鉄栄北地下街 | 愛知県 | 名古屋市 | 4,115㎡ | ¥53.11 |
| プテンザンセリゼ | 大阪府 | 大阪市 | 3,737㎡ | ¥49.08 |
| ミヤコ地下街 | 愛知県 | 名古屋市 | 3,600㎡ | ¥38.09 |
| 中之島地下街 | 大阪府 | 大阪市 | 3,512㎡ | ¥40.10 |
| 札幌駅南口広場地下街(札幌ステーションデパート) | 北海道 | 札幌市 | 3,458㎡ | ¥53.09(統合) |
| 地下鉄栄東地下街 | 愛知県 | 名古屋市 | 3,410㎡ | ¥44.09 |
| 博多駅地下街(博多ステーションビル) | 福岡県 | 福岡市 | 3,362㎡ | ¥39.11 |
| 長者町地下街 | 愛知県 | 名古屋市 | 2,712㎡ | ¥32.11 |
| 新相鉄ビルDブロック | 神奈川県 | 横浜市 | 2,680㎡ | ¥49.03 |
| 地下鉄栄南地下街 | 愛知県 | 名古屋市 | 2,643㎡ | ¥40.09 |
| 岡山三番街 | 岡山県 | 岡山市 | 2,343㎡ | ¥34.12(¥51.12) |
| 博多駅地下街(福岡朝日ビル) | 福岡県 | 福岡市 | 2,061㎡ | ¥39.11 |
| 地下鉄名駅地下街 | 愛知県 | 名古屋市 | 1,967㎡ | ¥32.11(h1.7) |
| 駅東ビル地下ゴール1街 | 兵庫県 | 姫路市 | 1,551㎡ | ¥49.12 |
| 盛岡ステーションデパート | 岩手県 | 盛岡市 | 1,486㎡ | ¥44.11 |
| 三原橋地下街 | 東京都 | 中央区 | 1,429㎡ | ¥27.12 |
| 浅草地下街 | 東京都 | 台東区 | 1,277㎡ | ¥30.01 |
| 佐世保駅前地下商店街 | 長崎県 | 佐世保市 | 1,233㎡ | ¥32.10 |
| 金沢駅前広場地下街 | 石川県 | 金沢市 | 973㎡ | ¥38.10 |
| 大名古屋ビル地下街 | 愛知県 | 名古屋市 | 896㎡ | ¥38.03 |
| 地下鉄栄地下街 | 愛知県 | 名古屋市 | 837㎡ | ¥32.11 |
| 地下鉄今池地下街 | 愛知県 | 名古屋市 | 745㎡ | ¥35.06 |
| 新名フー1地下街 | 愛知県 | 名古屋市 | 712㎡ | ¥32.07 |
| 地下鉄金山地下街 | 愛知県 | 名古屋市 | 706㎡ | ¥42.03 |
| 地下鉄上前津地下街 | 愛知県 | 名古屋市 | 705㎡ | ¥52.12 |
| 地下鉄千種地下街 | 愛知県 | 名古屋市 | 531㎡ | ¥35.06 |
| 中之町地下商店街 | 岡山県 | 岡山市 | 452㎡ | ¥48.11 |
| 蒲郡北駅前地下街 | 愛知県 | 蒲郡市 | 385㎡ | ¥42.06 |
| 地下鉄覚王山駅構内店舗 | 愛知県 | 名古屋市 | 173㎡ | ¥38.04 |
| 須田町地下ストア | 東京都 | 千代田区 | 144㎡ | ¥07.04 |
| 地下鉄銀座駅地下店舗 | 東京都 | 中央区 | 138㎡ | ¥32.12 |
| 中部近鉄百貨店 | 愛知県 | 名古屋市 | 68㎡ | ¥41.11 |
| 地下鉄東山公園構内店舗 | 愛知県 | 名古屋市 | 24㎡ | ¥38.04 |
| 地下鉄市役所駅構内店舗 | 愛知県 | 名古屋市 | 21㎡ | ¥41.01 |

別記1 日本全国の地下街(参考文献[5]より引用)

| イメージ | | 形態 | | | | 素材 | |
|------|------|-----|-----|-----|-----|----------------------|--------------------------------|
| | | 高さ | 広がり | 奥行き | 適用 | | |
| 地下空間 | イメージ | 理想 | 高・低 | 広 | 長 | 機能的快適 アトリウム | 善 自然(岩, 煉瓦) 悪 人工(コンクリート, 鉄) |
| | | 反社会 | 低 | 広 | 長・短 | 機能的で殺風景 格子, 内装なし | 人工(コンクリート, 鉄) |
| | | 防衛 | 低 | 狭 | 長 | 狭く頑丈な構造 小さな天窓 | 自然(岩) 人工(コンクリート) |
| | | 童夢 | 高 | 広 | 長 | 地下を意識させ ない, ドーム | 自然(岩, 土, 植物) 仮想物質 |
| | | 必然 | 低 | 狭 | 長・短 | トンネル, 洞窟 快適性がない | 自然(岩, 土) 人工(コンクリート, 鉄) |
| | 効果 | 超越 | 高 | 広 | 長・短 | ドーム 非日常的な構成 | 自然(岩, 土) 仮想物質 |
| | | 自由 | 高・中 | 広 | 中 | 機能的で快適 | 自然(岩, 土, 植物) 人工(コンクリート, 鉄) |
| | | 希望 | 中・低 | 狭 | 長・中 | 閉塞感があるが 開放箇所がある | 自然(岩, 土) |
| | | 混乱 | 低 | 狭 | 長 | 迷路, 人が多い 配管, 内装なし | 人工(コンクリート) |
| | | 忍耐 | 低 | 狭 | 中・短 | 生活環境に 快適性がない | 自然物(石積み) 人工物(コンクリート) |
| | | 清浄 | 高 | 広 | 長 | 地下を意識させ ない快適性 | 自然物(土・岩・川・花) 陰影の少ない平滑 |

| イメージ | | 光・色 | 代表的地下景観 | |
|------|------|-----|------------------------|----------------|
| 地下空間 | イメージ | 理想 | 善 明&暗 悪 暗 | 閉鎖一面, 二面景観 |
| | | 反社会 | 薄暗い蛍光量 陰影 | 閉鎖三面景観 |
| | | 防衛 | 薄暗い(電灯・ランプ) 少ない採光 | 閉鎖四面, 五面景観 |
| | | 童夢 | 明 太陽光, 照明 暗 月光, ランプ | 閉鎖一面景観 |
| | | 必然 | 暗(電灯, ランプ) | 閉鎖四面, 五面景観 |
| | 効果 | 超越 | 暗い照明 有彩色 | 閉鎖二面景観 |
| | | 自由 | 暗(ランプ) 地上と同程度 | 閉鎖一面, 二面景観 |
| | | 希望 | 遠くに一点の光 有彩色 | 閉鎖四面, 五面景観 |
| | | 混乱 | 直線的な照明 無彩色 | 閉鎖三面, 四面, 五面景観 |
| | | 忍耐 | 薄暗い 無彩色 | 閉鎖三面, 五面景観 |
| | | 清浄 | 明るい パステルカラー | 閉鎖一面景観 |

別記2 「地下空間を構成する要素とイメージ」(参考文献[1]より引用)